

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和大里小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	タブレット学習や漢字ドリル・計算ドリルを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を継続して図っていく。 児童の学習計画や学習状況を適時確認し、児童自身が主体的・計画的に学習できるように支援する。 年度初めに全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果の分析を全教職員と共通理解し、各学年の児童の課題を明確にして指導をしていく。 年度初めに学年で年間指導計画の確認とカリキュラムマネジメントについて考える時間を設定する。日々の授業を大切に、教材研究を充実させることで「分かる授業・楽しい授業」を実践していく。
思考・判断・表現	協働的な学びの時間を確実に確保し、児童の思考力・判断力・表現力の向上を継続して図っていく。 学校課題研究を中心に、各教科において児童の思考力・判断力・表現力を高める授業実践、教材研究を引き続き行う。 実践したICT機器の活用等の手立ても学校全体で共有しながら、自分の考えを表現することや人に分かりやすく伝えることを意識した学習活動を実践していく。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 定着状況の二極化が進み、該当学年で身に付けるべき知識・技能の定着が不十分な児童がみられる。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等にに応じた指導の個別化が不十分である。	⇒	「ドリルパーク」等を活用し、基礎学力の向上を図る【毎日実施】。その際、児童自らが学習履歴やノートを確認し、学習について振り返らせ学習計画を立てる時間を設定する【月に1度実施】。 児童の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援を行うことができるようにする【毎日実施】。学習計画の立て方や学習への取り組み方を教え、見通しをもって学習することや自己の学習について振り返ることの大切さについて伝える【月に1度確認】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 課題解決の過程において、自ら進んで考えたり、発表したり、友達と進んで意見を交換したりすることに意欲的でない姿が見られる。 <指導上の課題> 子ども主体の学びとなるような授業づくりが課題である。	⇒	学校課題研究のテーマを「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～自分で考え、自分で決める～」と設定し、教職員一人ひとりが授業改善に取り組む【通年】。 教職員同士の公開授業を設定し指導力を高める【1人3回実施】。課題や課題解決の方法を自ら決める時間を設定【毎授業時間実施】。試行錯誤することができる自力解決や協働学習の時間の確保【毎授業時間実施】。自らの学び方を調整するための振り返りの時間の確保【毎授業時間実施】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	「ドリルパーク」等を活用し、基礎学力の向上を図る【毎日実施】。〈教職員自己評価9月77.9%⇒2月90.3%〉 その際、児童自らが学習履歴やノートを確認し、学習について振り返らせ学習計画を立てる時間を設定する【月に1度実施】。〈9月78.6%⇒2月85.5%〉 児童の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援を行うことができるようにする【毎日実施】。〈9月85.0%⇒2月88.7%〉 学習計画の立て方や学習への取り組み方を教え、見通しをもって学習することや自己の学習について振り返ることの大切さについて伝える【月に1度確認】。〈9月91.4%⇒2月100%〉
思考・判断・表現	A	学校課題研究では各教科サークルに教職員が所属し授業改善に取り組んだ。試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成をテーマに授業改善を行いお互いの授業を見合うことで研究を深めた。 課題や課題解決の方法を自ら決める時間を設定【毎授業時間実施】。〈9月75.0%⇒2月81.5%〉 試行錯誤することができる自力解決や協働学習の時間の確保【毎授業時間実施】。〈9月83.6%⇒2月89.5%〉 自らの学び方を調整するための振り返りの時間の確保【毎授業時間実施】。〈9月74.3%⇒2月85.5%〉

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の主語・述語の関係を捉える問題に課題がみられた。解答類型を見ると、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であることが分かった。また、文を構成する語句が多いことから正答率が低くなったと考えられる。 算数の速さの意味について理解しているかをみる問題に課題がみられた。速さを求めることはできても、情報が多く複雑になった時に解答を導き出せない傾向があるため、必要な情報を正しく捉える力を伸ばす必要がある。 全学年で課題を共有し、どの学年でも課題を意識して日々の授業を実践していくことが大切であるとする。
思考・判断・表現	国語・算数ともに、自分の考えを言葉や数などを用いて記述する問題に課題がみられた。国語では自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること、算数では答えを導き出すことはできても、過程を図や式、言葉を使って分かりやすく説明することに苦手意識があり無回答率も高かった。「学級の友達と間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的な回答が92.9%であることから、友達への考えや説明の仕方を児童が取り入れることができるように、協働的な学びの機会を適宜確保していきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	昨年度のさいたま市学習状況調査や今年度の全国学力・学習状況調査で課題であった国語の主語・述語の関係を捉える問題について正答率の向上がみられた。全学年で課題の共通理解を図り、取り組んだ成果である。 算数の小数の減法(3から6年同一問題)の正答率は、3年50.0%・4年75.1%・5年66.7%・6年73.7%であった。昨年度は3年58.2%・4年74.8%・5年63.3%・6年78.9%であったことから、四則計算は繰り返し行い定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	理科では5・6年生とともに「エネルギー」と「生命」を柱とする領域の問題に課題が見られた。問題に対する予想や仮説を発想し、それを基に検証方法を考え、予想を基にした場合の結果への見通しをもつことができるような授業改善の工夫を考えていきたい。また、教科を問わずに自分の考えを言葉や図など多様な表現で表すこと、協働的な学びの中でより妥当な考えに自ら辿り着くことができるよう指導していく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の終わりや家庭学習において、ドリルパーク等を活用し基礎学力向上を図ることができた。データやノートから児童の学習状況を把握しながら、適宜声掛けや支援を行うことができるようになってきた。 継続して学習計画の立て方や学習への取り組み方を教え、見通しをもって学習することや自己の学習について振り返ることの大切さを伝えることが必要である。	変更なし ※教職員の意識向上のため、月1回Formsを用いて授業改善策の達成状況を確認する。
思考・判断・表現	B	学校課題研究が動き出し、各教科において公開授業が行われている。教職員同士が授業を見合い、協議することで授業改善に取り組んでいる。 自らの学び方を調整するために振り返りの時間を毎時間設定しているが、授業時間内に実施できないことが多いためタイムマネジメントが課題である。	変更なし ※教職員の意識向上のため、月1回Formsを用いて授業改善策の達成状況を確認する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)